令和５年度事業報告書

社会福祉法人

大河原町社会福祉協議会

令和５年度社会福祉法人大河原町社会福祉協議会事業報告

（令和５年４月１日～令和６年３月３１日）

『ここに住む人が　お互いに支え合い　暮らしやすい地域をめざします』

（『第２期地域福祉活動計画』基本理念）

Ⅰ　総括

近年、高齢化の一層の進行や生産年齢人口の減少、過疎化、生活インフラの脆弱化など、地域の姿や福祉の基盤が変化する中にあって、従来の福祉の枠組みでは対応が困難な住民の生活課題、福祉課題が増加しています。

令和５年度は、新型コロナウイルス感染症が第５類に移行することにより、マスク着用を含め多くの緩和がなされ、私たちが暮らす地域においても様々な活動が再開され少しずつ活気を取り戻しつつあります。このようななか、本会では事業計画に掲げた以下の４つの基本目標

１．地域の中で、気軽に交流・参加・学べる場づくり

２．誰もが地域で活動できる環境を整備し、地域を支える人づくり

３．困りごとを受け止めつながり続ける仕組みづくり

４．組織の基盤強化と体制の充実

のもと、地域住民や民生委員・児童委員、関連組織や団体等とのつながりを大切にしながら、事業の推進を図りました。

また、本会では各地区や関連団体の活動再開に対応しながら、これらの福祉活動に関する支援を継続、充実するとともに、参集型の研修会やイベントなど再開しました。また、組織内では、組織人事に関連する規則・規程の制定と改正、生活福祉資金等に関する体制充実等を行いました。

そして、災害ボランティアセンター事業では、その役割や機能について理解するための研修会の開催を決定した矢先に能登半島地震が発生しました。そのため、研修会においてはますますその重要性を実感するとともに、令和６年度には災害ボランティアセンター事業を重要事業として位置づけたところです。

以下、詳細な事業の実施状況について報告いたします。

なお、今年度の報告では、事業の概要説明に加え重要事業には「評価と課題及び今後の方向性」を付け加えています。

Ⅱ　事業報告

法人運営事業部門

１．法人運営事業

法人の円滑な運営を図るため、次の会議を開催した。

（１）理事会の開催

開催年月日	議　　題	出席者
５月２３日（火） （第１回）	報告第１号　会長職務の執行状況について 報告第２号　令和５年度受託事業の契約について 議案第１号　令和４年度社会福祉法人大河原町社会福祉協議会事業報告の承認について 議案第２号　令和４年度社会福祉法人大河原町社会福祉協議会収支決算の承認について 議案第３号　令和５年度社会福祉法人大河原町社会福祉協議会一般会計資金収支補正予算（第１次）について 議案第４号　次期役員候補者の選任について 議案第５号　社会福祉法人大河原町社会福祉協議会就業規則の一部改正について 議案第６号　定時評議員会の開催について	理事８名 監事２名
６月 14 日（水） （第２回）	議案第７号　会長、副会長の選定について 議案第８号　「評議員の選任・解任委員」補欠委員の選任について 同意第１号　法人運営委員会・地域福祉事業委員会の委員の委嘱について	理事 11 名 監事２名
11 月 28 日（火） （第３回）	議案第９号　令和６～８年度大河原町福祉作業所さくらに係る指定管理の仮協定締結について	理事８名 監事１名
12 月 18 日（月） （第４回）	報告第３号　会長職務の執行状況について 報告第４号　令和５年度一般会費及び賛助・特別会費の納入状況について 報告第５号　令和５年度社会福祉法人大河原町社会福祉協議会上半期監査実施状況について 議案第 10 号 令和５年度社会福祉法人大河原町社会福祉協議会一般会計資金収支補正予算（案）（第２次）について 議案第 11 号 社会福祉法人大河原町社会福祉協議会就業規則の改正等について 議案第 12 号 社会福祉法人大河原町社会福祉協議会給与規程の廃止について 議案第 13 号 第１回評議員会の開催について	理事７名 監事２名

3月12日（火） （第5回）	報告第6号　会長職務の執行状況について 報告第7号　専決処分の報告について 報告第8号　大河原町職員の派遣に関する協定等について 報告第9号　社会福祉法人大河原町社会福祉協議会就業規則の調整等について 議案第14号 令和5年度社会福祉法人大河原町社会福祉協議会一般会計資金収支補正予算（案）（第4次）について 議案第15号 令和 6 年度社会福祉法人大河原町社会福祉協議会事業計画（案）について 議案第16号 令和 6 年度社会福祉法人大河原町社会福祉協議会一般会計資金収支予算（案）について 議案第17号 令和6年度一般介護予防事業の受託について 議案第18号 令和6年度認知症カフェ事業の受託について 議案第19号 大河原町福祉作業所さくら指定管理に関する年度協定の締結について 議案第20号 大河原町生活支援体制整備事業の受託について 議案第21号 福祉サービスに関する第三者委員の選任について 議案第22号 第2回評議員会の開催について	理事10名 監事2名

（2）評議員会の開催

開催年月日	議　　題	出席者
6月13日（火） （定時評議員会）	報告第1号　令和5年度受託事業の契約について 報告第2号　社会福祉法人大河原町社会福祉協議会就業規則の一部改正について 議案第1号　令和4年度社会福祉法人大河原町社会福祉協議会事業報告の承認について 議案第2号　令和4年度社会福祉法人大河原町社会福祉協議会収支決算の承認について 議案第3号　令和5年度社会福祉法人大河原町社会福祉協議会一般会計資金収支補正予算（第1次）について 議案第4号　次期役員の選任について	評議員 15名 理事3名 監事1名
12月22日（金） （第1回）	報告第3号　令和5年度一般会費及び賛助・特別会費の納入状況について 報告第4号　令和5年度社会福祉法人大河原町社会福祉協議会上半期監査実施状況について 報告第5号　社会福祉法人大河原町社会福祉協議会就業規則等の一部改正等について 報告第6号　社会福祉法人大河原町社会福祉協議会給与規程の廃止について	評議員 14名 理事3名 監事1名

	議案第５号　令和５年度社会福祉法人大河原町社会福祉協議会一般会計資金収支補正予算（第２次）について	
３月２５日（月） (第２回)	報告第７号　専決処分の報告について 報告第８号　令和６年度一般介護予防事業の受託について 報告第９号　令和６年度認知症カフェ事業の受託について 報告第 10 号 大河原町福祉作業所さくら指定管理に関する年度協定の締結について 報告第 11 号 大河原町生活支援体制整備事業の受託について 報告第 12 号 福祉サービスに関する第三者委員の選任について 報告第 13 号 大河原町職員の派遣に関する協定等について 議案第６号　令和５年度社会福祉法人大河原町社会福祉協議会一般会計資金収支補正予算（案）（第４次）について 議案第７号　令和６年度社会福祉法人大河原町社会福祉協議会事業計画（案）について 議案第８号　令和６年度社会福祉法人大河原町社会福祉協議会一般会計資金収支予算（案）について	評議員 １７名 監事２名 理事３名

（3）監事監査

令和４年度決算並びに令和５年度における理事の業務執行状況及び財産状況等の監査を実施した。

開催年月日	内　　容	出席者
４月２８日（金） 決算監査	下半期監査（１０月１日～３月３１日） 令和４年度決算	会長・副会長２名 監事２名 事務局３名
１１月１０日（金） 定期監査	上半期監査（４月１日～９月３０日）	会長 監事２名 事務局３名

（4）社会福祉施設等指導監査

宮城県より社会福祉法第 56 条第１項の規定により、社会福祉法人及び社会福祉施設の運営全般に係る指導監査を受けた。

開催年月日	内　　容	出席者
５月２５日（月） 指導監査	社会福祉法人及び社会福祉施設の運営全般 令和４年度～直近	会長 宮城県職員２名 事務局３名

２．会員会費制の推進

○会員の加入状況

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、賛助・特別会費について目安額は設定しないこととし、納期も 11 月まで延長した。

種類	会費	**令和５年度**		令和４年度		増減	
		加入数	**納入額**	加入数	納入額	加入数	納入額
一般会員	500 円	**7,638 世帯**	**3,819,000 円**	7,639 世帯	3,819,500 円	△１世帯	△500 円
賛助会員	500 円以上 10,000 円未満	**485 口**	**2,996,500 円**	610 口	3,042,000 円	△125 口	△45,500 円
特別会員	10,000 円以上	**39 口**	**475,000 円**	43 口	450,000 円	△4 口	25,000 円
団体会員	6,000 円以上	**12 団体**	**72,000 円**	8 団体	48,000 円	4 団体	24,000 円

増減　３,000 円の増額

３．地区福祉推進委員長会議の開催

地区福祉推進委員長会議を開催し、本会事業の説明と会費募集をお願いした。

日　時　令和５年７月２４日（月）午後１時３０分～３時３０分

内　容　社会福祉協議会会員会費の募集について

会　場　大河原町福祉センター

４．その他

（１）寄附金の状況（令和５年度中）

個人、企業、各種団体からご寄附を頂き、本会活動に有効に活用した。

大河原町ロータリークラブ　　１００，０００円

うたつ会　　６９，３８７円

金ケ瀬本町西側上組契約講一同　　３０，８６１円

庄司佳子、安藤美加　　１１７，４５０円　切手シート及び古銭の現金化

寄附件数　　35 件　寄附金額　550,548 円

（２）各種表彰及び感謝状の推薦事務

本会の社会福祉事業に従事し功労のあった方、並びに本会の活動にご協力、ご支援をいただいた方に対し、感謝状の贈呈式を開催した。

日　　時　　令和５年７月２５日（火）午前１１時

会　　場　　大河原町福祉センター

贈呈該当者　　15 名

また、地域福祉の発展に功績のあった方々を、県知事表彰･県民児協会長表彰･県共同募金会長表彰等に推薦して、表彰された。

（３）正副会長会議の開催

法人の運営及び事業について、会長・副会長・事務局長・次長による会議を実施した。毎月第１月曜日か木曜日、年間、計 13 回開催。

（４）職員会議の開催（一木職員会議）

会長及び職員による事業についての打合せ会議を毎月１回、主に最終木曜日に行った。

（５）ソーシャルワーク実習の受入

社協としての社会福祉の発展に対する貢献や福祉関連大学とのつながりの強化並びに職員の資質向上を目的として、社会福祉士資格の取得を目指す大学生のソーシャルワーク実習を受け入れた。これまでは、２週間程度の短期研修の受入れをしていたが、５年度は令和５年８月～９月の間の１か月間、東北福祉大学社会福祉学科４学年１名、福島学院大学福祉心理学科４学年１名の計２名を受入した。

【評価と課題、今後の展開】

・職員（指導者）側の学びと気づきはもとより、今後の社協事業や事業展開のあり方などに役立った。

・受入れにおいて事務量が相当多くなるのが課題である。しかしながら、その意義は高いため、全体事業と調整しながら、今後も積極的に受入れて行くことにする。

地域福祉活動事業部門

１．広報事業

（１）広報誌「社協だより」の発行（全戸配布）

本会の活動の周知、地域福祉に対する理解と啓発などを図るため、「社協だより」を発行し、区長経由で町内全戸に配布した。**１号あたりの発行部数　10,200 部**

号　数	発行日
「社協だより」第 119 号	令和５年５月１５日
〃　第 120 号	令和５年８月１５日
〃　第 121 号	令和５年 12 月１５日
〃　第 122 号	令和６年２月１５日

（2）ホームページとＳＮＳ（フェイスブック）の活用

本会のホームページは令和4年10月にリニューアルした後、内容を充実しながら、本会及び本会の活動の周知、各種サービスの詳細案内などに役立てている。また、ＳＮＳ（フェイスブック）では、各種事業の利用者等にタイムリーな情報発信及び連絡網として活用している。

	R4.10月～ アクセス数	月平均 アクセス数	R5年度 アクセス数	月平均 アクセス数	月平均比較 R5/R4(%)
ホームページ	8,751件	1,750.2件	36,889件	3,074.1件	175.6%↑
フェイスブック	フォロワー数71名		1,866件	155.5件	―

【評価と課題、今後の展開】

・広報紙では発行回数等により社協事業等の情報のスピード、内容に限界がある。これらの対応としてホームページやフェイスブックを広めていきたい。

・アクセス件数、内容等についての評価は難しいが、他の社協等との比較などによる評価・改善を進める。

・社協の利用者は高齢者等が多いため、今後「スマホ」や「SNS」対応を強化すべきかどうか、慎重に検討を進めたい。

2．福祉車両貸出事業

車椅子使用者の移送ができる、軽自動車ワゴン1台、普通ワゴンタイプ1台の貸出を行った。5年度には、地区における敬老会などでの利用もできるように貸出対象を拡大した。また、短距離使用時の給油の手間を軽減するため、現金でも対応できるように改正した。

利用料金　無料（ただし燃料は使用した分を給油）　貸出件数　　３１件（前年度比－７件）

【評価と課題、今後の展開】

・貸出件数が大幅な減となった。新規の利用者が少なくリピーターがほとんどを占めるため、ニーズが減少しているのか？事業の周知不足か（周知すべきか）？介護保険（介護タクシー）との整合も含め、今後の方向性を検討していく。

・車輌（特に軽自動車）や貸し付けに関する手続き方法等は好評を得ている。

3．福祉用具の貸出事業

（1）福祉用具貸出事業

障がいのある方や高齢者等の日常生活を支援するため、福祉用具の貸出を行った。

また、介護用ベッドの運搬が困難な家庭には、ベッド運搬ボランティアの協力のもと、2,000円で運搬するサービスも実施している。

用具名	利用料 （１ヵ月）	保有総数	**５年度末の 総貸出数**	４年度末 との対比	**５年度 新規貸出数**	４年度 との対比
介護用ベッド	３００円	５２	**３２**	－１	**１０**	－１０
車いす	３００円	８２	**６６**	＋１４	**６５**	＋７
歩行器	１００円	１５	**１２**	＋２	**１３**	＋５
四点杖	１００円	１４	**４**	±０	**３**	－２
合　計		１６３	**１１４**	＋１４	**９１**	±０

※その他の貸出実績として、小学校における福祉体験学習での車いす使用などがある。

＊介護用ベッド運搬件数　13 件　（4 年度 15 件）　　ベッド運搬ボランティア登録数１８名

【評価と課題、今後の展開】

・５年度の新規貸出総数(91 件)のうち、車いすの貸出件数が半数(66 件)を占め、ニーズも増加している。対応として５年度中に、車いす５台を購入した。６年度予算にも計上し台数の充実を図っていく。

・５年度末の総貸出数(114 件)のうち、23 件が５年以上の貸出となっている。これらは、用具の老朽化、返却時の点検やクリーニング、多くは用具の買い替えが必要となっている。貸出期間と利用者負担に整理が必要か？

・介護用ベッドに加え、車いすの運搬（配送・回収）の要望が増加している。料金の見直しや運搬料の徴収も含め対応を検討する。

・介護用ベッド、歩行器や四点杖については、一般的に販売されている状態となってきたことから、料金の見直しと共に貸出品の更新についても慎重に対応する。

（２）チャイルドシート等貸出事業

子育て支援と住民の交通法令遵守（支援）を目的として、チャイルドシート、ジュニアシートの貸出を行った。コロナ後の規制緩和等により、帰省や旅行が増加したことにより、利用件数が大幅に増加している。

物品名	利用料 （１カ月）	貸出数 （前年度比）	回収数	貸出中	在庫数	総　数
チャイルドシート	300 円	３５（＋１０）	２１	１４	９	２３
ジュニアシート	100 円	１０　（＋１）	７	３	７	１０
合　計	―	４５（＋１１）	２８	１７	１６	３３

【評価と課題、今後の展開】

・町内在住者が日常的に利用するよりも、帰省などの時に（主に祖母）が利用するケースが多くみられる。（当然ながら）助かっているとの声は多い。そのため、利用件数は増加しているが、住民の子育て支援の目的からはやや外れつつある。

・チャイルドシートの義務化（2000 年 4 月）からしばらくたっており、購入等は常識的に親の責務と考えられることから、シートの更新（新規購入等）は行わず、対応できる範囲内で継続し徐々に取り止めにしたい。

・貸出しに関する（事務）手続きを簡素化した。

４．おもちゃの図書館「パオ」事業

障がいのあるお子さんや発達の気になるお子さんとその家族、地域の支援者が、地域での居場所や、気軽に相談できる関係を作ることを目的として、年６回実施した。

日　時	内　容	参加者数
５月２７日（土） 午前９時～14 時 30 分	移動研修「いちご農園見学・いちご狩り」 場所：ラ・フレーズ、かわまちてらす閖上（名取）	１８名
７月２３日（土） 午前 10 時～12 時 30 分	「ボッチャ体験会」 場所：金ケ瀬小学校体育館	７名
９月１０日（土） 午前 10 時～12 時	勉強会「大河原町で住み続けるために」 場所：大河原町福祉センター	１３名
１１月１９日（土） 午前 10 時～12 時 30 分	「工作体験会」 場所：大河原町福祉センター	１０名
１月２１日（土） 午前 10 時～12 時 30 分	勉強会「SNS 等での犯罪被害に遭わないために」 場所：大河原町福祉センター	９名
３月１８日（土） 午前 10 時～11 時 30 分	「今年度の振り返りと次年度の活動について」 場所：大河原町福祉センター	７名

５．地区福祉推進事業

（１）地区福祉活動推進給付金

各行政区（地域）において、地区福祉推進委員、ボランティア等と共に地区福祉活動を活発化するため、各行政区から寄せられた賛助会費、特別会費の半分を（還付）給付した。

地区福祉活動推進給付金総額　41 行政区　1,735,750 円（前年度比－10,250 円）

（２）地区福祉活動推進研修会の開催

地区福祉の推進を図るため、地区福祉活動推進研修会を開催した。

日　時　令和５年１１月２４日（金）午後１時３０分～３時３０分

議　事　講　話　「住み慣れた我が家で暮らし続けるために」

講　師　　三色吉シニア倶楽部　会長　青柳　信治氏

対　象　地区福祉推進委員（７７名参加）

場　所　大河原町中央公民館大ホール

（３）新型コロナウイルス関連生活支援物資の提供

新型コロナウイルスの位置づけ変更に伴い、「(新型コロナ感染）自宅療養者向け生活支援物資」の提供が宮城県とみやぎ生協からあり、町関連施設やボランティア団体、各行政区及び生活困窮者等に生活用品を提供（配付）した。

（生活用品類）

食料品（缶づめ、レトルト食品飲物)、トイレットペーパー、ティッシュ、ハンドソープ、ハ

ンドジェル、ゴミ袋等

① 関係施設等への提供先

（３２行政区、町関連施設１９団体、ボランティア４団体）計５５ケ所

重量数：8,872.2 kg

② たんぽぽ食堂フードパントリー対象へ臨時の食料提供を行った。

日　　時　令和５年６月５日（月）～７日（水）午前１０時～午後５時

場　　所　大河原町福祉センター

配付世帯　３８世帯

重 量 数　380 kg

③ 緊急コロナ特例福祉資金借受人の方を対象に臨時の食料提供を行った。

日　　時　令和５年６月１２日（月）～１４日（水）午前１０時～午後５時

場　　所　大河原町福祉センター

配付世帯　６９世帯

重 量 数　690 kg

（４）善意銀行事業（受入・払出状況）

○物品受入（２３件）

未使用切手、肌着、タオル、介護用オムツ等の受入れした（いただいた。）

○物品払出（２３件）

町内の福祉関係施設や本会事業、町内の方々に払出した（活用した。）

○金品払出（義援金１７件 510,000 円・火災見舞金１件 20,000 円）

（５）マイクロバス貸出事業

地域福祉の向上を目的とした地区の集いや研修等、福祉・ボランティア団体の研修に対し、本会のマイクロバスを貸出した。前年度より高齢者団体等が利用しやすいように改正した。

貸出件数　２７　件（前年度比＋１２件）

① 概要

ア　利用できる用途

（ア）地域福祉活動に関する研修会

（イ）視察や移動研修会

（ウ）地区の敬老会等の送迎等

イ　利用距離及び利用時間

片道１００ｋｍ以内、９時から１６時

ウ　利用団体・利用料金

No.	団体	負担金
1	大河原町共同募金委員会	無料
2	社協加入団体 （団体会費納入団体）	団体会費として 6,000 円
3	行政区	年１回無料・２回目以降は団体会費として 6,000 円
4	大河原町民生委員児童委員協議会	団体会費として 6,000 円
5	大河原町老人クラブ連合会	年１回無料・２回目以降は団体会費として 6,000 円
6	ふれあい・いきいきサロン団体	年１回無料・２回目以降は団体会費として 6,000 円
7	大河原町身体障害者福祉協会	団体会費として 6,000 円
8	大河原町ボランティア連絡会	年１回無料・２回目以降は団体会費として 6,000 円

②　マイクロバス利用状況

	R４年度	R５年度	団体・目的（行先）
４月	0	1	団体：サロン(１)、内容：移動研修(１)、行先：県内(１)
５月	1	1	団体：サロン(１)、内容：移動研修(１)、行先：県外(１)
６月	2	4	団体：サロン(３)、その他の団体(１) 内容：移動研修(４)、行先：県内(３)、県外(１)
７月	0	0	
８月	0	1	団体：その他の団体(１)、内容：移動研修(１)行先：県外(１)
９月	0	7	団体：サロン(３)、行政区(２)、その他の団体(２) 内容：移動研修(４)、敬老会(３) 行先：町内(２)、県内(５)
１０月	7	9	団体：サロン(４)、行政区(１)、その他の団体(４) 内容：移動研修(８)、敬老会(１)　行先：県内(７)、県外(２)
１１月	5	3	団体：行政区(１)、その他の団体(２) 内容：移動研修(２)、敬老会(１)　行先：県内(３)
１２月	0	1	団体：その他の団体(１)、内容：移動研修(１)、行先：県内(１)
１月	0	0	
２月	0	0	
３月	0	0	
計	１５	２７	

団体会費　１０　件　６，０００円×１０口＝60,000 円

【評価と課題、今後の展開】

・新型コロナウイルスの５類移行に伴い地区の活動等が再開し、前年度より利用数が２倍程度に増加した。これを受け 6 年度よりバスの貸出を整理し、利用料の改正を行った。

（６）軽トラック貸出事業

地域福祉活動を支援するため、軽トラックの貸出を行った。

貸出件数　２０件**（前年度比－４件）**

（７）「地区のつながりづくりに役立つ備品等」整備助成事業

地域コミュニティ活動などの継続と活性化を図ることを目的として、集会所等の備品購入等を助成した。当初予算額を超える多くの行政区から申請があり、審査会を開催し決定した。

助成実績　６件に対し　８４９，０００円（応募件数７件、当初予算８００，０００円）

地区名	上大谷区	本町一区	橋本区	上町二区	末広区	保科区
主に使用するグループ等	上大谷農家組合 上大谷区	本町一区子ども育成会 本町１区	橋本区環境保全会 橋本区	上町ソフトボール愛好会 上町二区小学校親子会	末広子ども親の会 末広区	健康のつどい 保科区会
整備(購入)備品	噴霧器 プリンター	全自動わた菓子機 かき氷機	パソコン プリンター	エンジンブロア 刈払機	インクジェットプリンタ	折りたたみテーブル
助成額	84,000 円	151,000 円	177,000 円	129,000 円	132,000 円	176,000 円

審査会　日時　　令和５年８月３０日（水）　午前１０時

場所　　大河原町福祉センター　１階会議室

【事業評価】

・制度が２年目になり定着してきている。整備された備品は、こども祭りや広報誌の発行等に有効に活用されている。

・全行政区に生きわたるまで事業継続する必要がある。毎年の予算確保、スケジュール調整等に慎重な配慮が必要である。

（８）各福祉関係団体の支援、協力

福祉関係団体の円滑な運営と育成支援を目的として、本会で事務局を担当し団体事務や連絡調整を行った。本会で事務局を担当した団体は以下の通りである。

大河原町共同募金委員会

構　成	運営委員数１３名　　審査委員１３名
会議の状況	運営委員会：年３回　審査委員会：年１回
支援内容	①　事業運営全般　②会計処理　③募金活動（赤い羽根、歳末たすけあい、災害義援金、街頭募金等）④助成金の申請・配分

大河原町民生委員児童委員協議会

構　成	①協議会　定数５６名（現員数５２名） 民生委員児童委員４９名・主任児童委員３名をもって構成する。 民生委員児童委員は民生委員法に基づき、厚生労働大臣より委嘱される。 また、大河原町福祉委員、本会地区福祉推進委員を委嘱され、地域住民の福祉の増進を図ることを任務として活動している。 ②運営委員会（１８名） 協議会役員並びに部会・地区会・委員会の長をもって構成し、協議会運営の中核的な役割を担っている。 ③部会　※主な事業 ・障がい者福祉部会（１８名）　※福祉作業所さくら運営への協力 ・児童福祉部会（１６名）　※公園・通学路点検事業の実施 ・高齢者福祉部会（１８名）　※高齢者救急安心カード事業の実施 ④地区会　（東部・中央・西部・金ケ瀬） 担当する地区（小学校区）における通学安全支援事業（下校時パトロール）、児童センター等との交流支援事業、行政区長等との情報交換会を実施する。 ⑤委員会 ・主任児童委員会（３名） 子ども・子育てに関する支援を専門的に担当する主任児童委員をもって構成し、行政、学校等の関係機関と地区担当の民生委員との連絡調整役を担う。 ・広報委員会（４名） 民児協だより「芙蓉」を年２回発行するため、取材、編集を行う。 ・手引き編集委員会（８名） 委員活動に関するマニュアルや関係機関の連絡先等を記載した「民生委員児童委員活動の手引き（平成２５年作成）」の情報更新のため、編集、会議を行う。第１回会議は令和６年１月３０日に実施し、令和７年１２月に改訂版の発行を目指す。
会議の状況	総会・定例会（毎月）　臨時総会（主に改選期に実施） 正副会長会議（１３回）運営委員会（３回）　監査会（１回） 他市町村民児協の視察研修の実施・受入（随時）
支援内容	①文書の収発事務　②主要な事業、会議、研修会への出席及び運営支援 ③会計事務支援　④町・県等との連絡調整

【事業評価】

・民生委員児童委員及び同協議会は日頃から地域の実情を把握し、あらゆる生活上の相談に応じ関係機関等とつなぐ役割を担っており、地域福祉の中心的機能（組織）といえる。

・一方、福祉の公共サービス部門においては町福祉課に協力するとともに、地域福祉（主にボランタリー部門）では、事務局機能を支援、補助する本会と密接につながりながら、地域福祉を牽引する両輪の役割を担っている。

・本会で実施する「非常持ち出し袋支給事業」や「気になる高齢者等の巡回訪問事業」等においては多大な協力をいただいている。また、社協側からも民児協主催の事業や団体運営等に対しては全面的な支援体制を取っている。

・ライフスタイルの変化による個人主義の浸透、個人情報に対する配慮、そして成り手不足など、民生委員、民児協を

取り巻く環境は厳しくなる一方であるが、今後とも社協との協力・協働体制をより固くして、地域福祉の維持、再生に取り組むことが求められる。

・災害ボランティアセンターにおいては、要援護者の安否確認、避難所運営や災害ボランティアセンターの運営支援等、民生委員の協力が必要不可欠であることから、6 年度においても、事務局支援を強化・継続しつつ、行政、社協、民生委員児童委員（民児協）の役割の整理を進める。

大河原町身体障害者福祉協会

構　成	会員数１４名
会議の状況	町協会　総会：年１回、役員会：年１回、会員交流会：年２回 仙南地方連絡協議会　理事会：３回、スポーツ交流会：１回、移動研修：１回
支援内容	①補助金の申請手続き（申請～実績報告）②会計処理 ③会議等の運営　④各種行事の運営　⑤仙南地方連協の運営

大河原町老人クラブ連合会

構　成	９単位クラブ　会員数２７６名
会議の状況	総会：年１回、役員会：年３回、監査会：年１回、 専門部会：年２回
支援内容	①補助金の申請手続き（申請～実績報告）②会計処理 ③会議等の運営　④広報紙の発行 ※スポーツ大会、趣味の作品展等

大河原町ボランティア連絡会

構　成	１７グループ　会員数３００名
会議の状況	総会：年１回、正副会長会議：年２回、監査会：年１回、 研修会(仙南地方ボランティア連絡協議会研修会への参加)：年１回
支援内容	①会議等の運営　②会計処理　③仙南地方ボランティア連絡協議会への参加及び事務局支援

仙南地方ボランティア連絡協議会

構　成	７町（各町ボランティア・NPO 連絡会）　各町理事２名ずつ
会議の状況	総会：年１回、理事会：年４回、監査会：年１回、 研修会：年１回
支援内容	①理事会及び研修会の運営　②会計処理　③広報誌の発行 ※令和５年度は仙南地方ボランティア連絡協議会の事務局担当町になり、仙南７町合同の研修会等を行い、交流を深めた。

【評価と課題、今後の展開】

・上記団体については、各団体の自主性、自律性を基本としながら、社協設立以来、それぞれの経緯により、事務局（支援）を担っている。ただし、経理上の不正行為を防止するため「事務委託契約（書)」を締結しているが、契約の自動更新条項を含むため、双方の状況や社会環境の変化に対応することなく、契約内容も見直しされずに（半ば慣例的に）継続されて来た。

・震災やコロナ禍を経てそれぞれの団体や社協を取り巻く環境が大きく変わるなか、契約内容の再確認・変更はもとより、それぞれの関係性や支援のあり方について協議と変更（再確認）が必要となっている。

6．コミュニティカフェ・リアン事業

地域の人たちが集まり、人と人をつなげる交流の場として、平成 28 年から福祉センター１階（通称）カフェ室で毎週月曜日に「コミュニティカフェ・リアン」を開催している。

お客様の対応等は、午前・午後それぞれ 2 名のボランティアにお願いしている。現在、ボランティア登録は 17 名であり、年度のボランティア総数は延べ 191 名となっている。

〈カフェリアン利用状況〉

年　　度	開催日数	大人（男性）	大人（女性）	小中学生	未就学児	計
令和４年	42 日	159 名	180 名	0 名	4 名	343 名
令和５年	**４８日**	**２０９名**	**２５８名**	**0名**	**１４名**	**４８１名**

令和５年度開催日数：４８日　1 日当たりの平均利用者数　約 9.6 名

利用料金　1 人 300 円（お菓子付きコーヒー等おかわり自由）、未就学児無料

収支概算　収入　利用人数（大人）454 名×300 円＝136,200 円　収入計　136,200 円

支出　ボランティア謝礼 1 回 500 円×191 人＝95,500 円

コーヒーお菓子等＝148,000 円　支出計　243,500 円

【評価・課題、今後の展開】

・物価高騰を受け令和５年４月から、利用料大人２００円⇒３００円、小中学生１００円⇒２００円、未就学児無料（そのまま）と改定した。しかしながら、収支的には上記のとおりの持ち出し（赤字）となっている。

・コロナの５類移行と共に客足が少しずつ戻っている。最近では、口コミで一般の方の利用が増え、常連になる方もいる。又、親子連れの利用も増加しており、今後も増加傾向が見込まれる。

・今後は、国が推進する「重層的支援体制整備事業」における、誰もが参加できる「居場所づくり」的な場としての展開や展示会やギャラリー、イベント等の開催等により、このまま集客を高める方向も考えられる。

・事業収支を最優先にすべきではないが、本来の事業目的と現在の実績について検証・評価したうえで、PR の必要性や上記のような事業転換についても考える必要がある。

7．たんぽぽ食堂事業（こども食堂事業・フードパントリー事業）

（１）こども食堂（１２回開催：利用延べ６４８名）　　前年度比＋９５名

子どもたちに食を通じたつながりをつくるため、小中学生を中心に手作りのかつカレー弁当「おかあさんのカレーライス」を配付した。通常、大河原小学校区（蔵王電気駐車場）、南小学校区（見城前ファミリーマート駐車場）にてそれぞれ 27 食ずつ計 54 食を配付した。

カレーライスは６名のボランティアにより調理される。お米はフードバンクに寄せられたもの、豚肉とカツは㈱ヒルズから頂いており、豚肉は総量２０Kg 以上、カツは７２０枚の寄付となる。

町内には、たんぽぽ食堂の他、２カ所のこども食堂がある。これらの活動の立ち上げ時には、社協が支援しており、現在は食材の提供や助成金のほか、研修会等の情報提供も行っている。

現在、新規団体立上げの相談を２件受けており、こちらも支援を予定している。

〈配付実績とリピーター数〉

	南小学区（見城前）		大河原小学区（蔵王電気）		合計	
	利用人数	リピーター	利用人数	リピーター	利用人数	リピーター
4月	２７名	１７名	２７名	3名	５４名	２０名
5月	２７名	２２名	２７名	１６名	５４名	３８名
6月	２７名	１９名	２７名	3名	５４名	２２名
7月	２７名	１６名	２７名	9名	５４名	２５名
8月	２７名	6名	２７名	3名	５４名	9名
9月	２７名	１１名	２７名	9名	５４名	２０名
１０月	２７名	１３名	２７名	7名	５４名	２０名
１１月	２７名	１７名	２７名	１１名	５４名	２８名
１２月	２７名	7名	２７名	１６名	５４名	２３名
1月	２７名	１５名	２７名	１９名	５４名	３４名
2月	２７名	１０名	２７名	１４名	５４名	２４名
3月	２７名	１０名	２７名	１２名	５４名	２２名
合計	３２４名	１６３名	３２４名	１２２名	６４８名	２８５名

（2）フードパントリー事業（8回開催：利用延べ３８４件）　　前年度比＋１６１件

町子ども家庭課の協力により児童扶養手当対象世帯へ周知し、登録があった約６０世帯へ食材・生活消耗品などダンボール1箱分程度と米5Kgを2ヵ月毎に配付した。

定例配付の他に2回の臨時配付も実施した。6月には宮城県からのコロナ支援用食料、１２月には上谷地区農業生産組合より頂いた軽トラック1台分の野菜を配付した。

〈支援内容〉

	登録世帯数	配付内容
4月	３９世帯	米5kg、寄付食料詰合せ
6月	４１世帯	米5kg、寄付食料詰合せ
6月臨時	３９世帯	レトルトカレー・ごはん、缶詰、トイレットペーパーなど詰合せ
8月	５６世帯	米5kg、寄付食料詰合せ
8月臨時	３２世帯	じゃがいも、たまねぎ、きゅうり、なす、トウモロコシなど
１０月	５７世帯	米5kg、寄付食料詰合せ
１２月	６０世帯	米5kg、寄付食料詰合せ、野菜、クリスマスケーキ手作りセット
2月	６０世帯	米5kg、寄付食料詰合せ

【評価・課題、今後の展開】

・町子ども家庭課ではこども食堂へ助成金交付、社協では立上げ相談・支援から運営支援まで行う。一連の流れと役割分担が出来つつある。

・こども食堂（運営）に関心を示す人が増えていることを受け令和６年度の重点事業とした。また、新しい助成制度「支え合い助け合えるボランティア活動助成」を整備し、こども食堂の立上げと運営を積極的に支援する。

８．フードバンク事業（緊急食料支援事業）

生活に困っている方や町内のボランティア団体に対し支援を行うため、多くの地域住民や地元企業、協定を結ぶ事業所等から食料品などの寄付をいただき提供している。提供（配付）先は生活困窮相談者の緊急支援、たんぽぽ食堂の材料、〃フードパントリーによる定期的な配付（食料支援)、生活支援資金コロナ特例借受人への（特例）支援のほか、ボランティア団体の子ども食堂への材料としても提供した。

令和５年度はコロナ在宅者支援用食料の（在庫品）配付として、大量の食材、生活用品、衛生用品等を受け入れた。内容は、宮城県から缶詰、レトルトごはん等食料約４ｔ、ハンドソープ、ティッシュ等生活消耗品約５ｔ、みやぎ生協からは食料、生活消耗品併せて８０ｋｇの受入れ（寄付）となっている。

	令和４年度	令和５年度
食品寄付件数 （受入れ）	１０６件 （個人８７件、団体・企業１９件）	７９件 （個人６８件、団体・企業１１件）
食品支援件数 （払出し支援）	２８件 （個人２１件、団体・企業７件）	１５２件 （個人９８件、団体・企業５４件）

※（）内は内訳

【評価・課題、今後の展開】

・一般の個人、企業等からの寄付件数が減少しているため、フードバンク事業についての周知方法を工夫する。

・電気やガスが使えない利用者や女性生理用品の要望もある。令和６年度は多様な食料、生活用品について受入れと提供が出来るようにしていきたい。

９．ふれあい・いきいきサロン活動推進事業

高齢者が仲間を作り介護予防を行えるつどいの場「ふれあい・いきいきサロン」を支援するため地域住民によるサロン活動団体へ助成金を交付した。令和５年度はコロナ禍で縮小した活動を活発化するために生活支援コーディネーターが訪問しニュースポーツのサポートや助け合いについての話し合いなどを行いその内容をホームページや広報誌に掲載し活気づけた。

登録団体：１３団体　助成金の交付：１３団体５５３，５００円

助成金の内訳

（１）活動助成費（１回あたり３，０００円×回数）

（２）福祉活動行事保険加入費（１名あたり３０円×人数×回数）

（３）冷暖房費

〈ふれあい・いきいきサロン活動助成金交付先〉

NO	サロン団体名	令和４年度			令和５年度		
		開催回数	バス利用	延参加数	開催回数	バス利用	延参加数
1	西原区「お茶っこ飲みの会」	２回		３６名	７回		１２２名
2	尾形丁２区「駅前元気かい」	１２回		１５０名	１２回		１３０名
3	中島町区「一休会」	１０回		２１２名	１０回		１６７名
4	上町２区「コスモス会」	０回		０名	８回		１０９名
5	本町２区「にこにこ会」	１２回	１回	１２９名	１２回	１回	１４７名
6	上町１区「きんぼし会」	１０回		１８１名	１０回		１９１名
7	中町区「なごやか会」	１０回		１２８名	１０回	２回	１５３名
8	尾形丁１区「ひまわり会」	１０回		１４３名	１０回	１回	１４３名
9	本町１区サロン「なごみ会」	１０回	１回	１２５名	１０回	１回	１４１名
１０	金ケ瀬６区「笑笑（わいわい）会」	１４回	２回	１９９名	１８回	２回	２４２名
１１	小島区「サロン・いなほ」	１２回	２回	１８１名	１２回	２回	２０７名
１２	上川原区「つどいの会」	２４回		３０２名	２４回		３０６名
１３	上谷１区「レインボー会」	９回		３３７名	１０回		３４６名
	合　計	１３５回	６回	２，１２３名	１５３回	９回	２，４０４名

【事業評価】

・令和５年度は開催回数１８回、参加人数２８１名が増加した。社協マイクロバス利用の移動研修も６回から９回へ増加した。半面、コロナ禍で解散したサロンもあることから、その復活や新規サロンの立ち上げを支援していく。

・「生活支援体制整備事業」と本事業を関連させながら、地域住民による高齢者支援を推進する。

１０．一人暮らし高齢者「非常持ち出し袋」支給事業

一人暮らし高齢者を対象に、災害時の備えと高齢者の生活や課題の把握を行うため、民生委員児童委員協議会の協力を得て「非常持ち出し袋」を配付した。

令和 5 年度から民児協事業「高齢者救急安心カード配付事業」の対象年齢に揃えて見直し７５歳以上とした。

実施日　令和５年１２月１１日（月）ほか　**支給者　６０名**

【評価・課題、今後の展開】

・地震などの災害が続いていることから、非常持ち出し袋事業は継続して実施する。高齢者以外の障がい者等からの要望に対しても、民生委員へ（必要性）確認をしながら柔軟に対応したい。

１１．ブックスタート事業

子どもと保護者のこころの健康づくりと地域における子育て支援を目的に、町の乳幼児健診時に絵本を配付した。

４ヶ月児　　年６回：１１９名（４年度：１２５名）

１歳６ヶ月児　年７回：１４７名（４年度：１４１名）

ブックスタート事業推進会議を開催し、関係機関と連携し事業の推進を図った。

日　時　令和６年３月２１日（木）午後３時～午後４時

場　所　大河原町福祉センター

【評価・課題、今後の展開】

・コロナ感染症対策が緩和され今年度から絵本を直接手渡しできた。また、主任児童委員と協力し読み聞かせのポイントなどを保護者に伝えた。絵本は子どもとの良い関係づくりに役立っているとの意見が多く寄せられている。

・駅前図書館、健康推進課、子ども家庭課、民児協との連携・役割分担を検討しながら事業を継続する。

１２．ボランティアセンター事業

（１）ボランティア保険取扱状況

保険の種類	申込件数	人数	事故数
ボランティア保険	５１	６０９名	1
ボランティア・福祉活動行事保険	１０２	３，１６６名	0

（２）福祉教育の推進

福祉に関する体験や交流、授業（講座）を通して、様々な世代や立場にある人を知ることで思いやりの心、豊かな心を育むとともに、ともに地域で生きることを考えるきっかけとすることを目的に福祉教育を推進している。今年度は町内の小学校(２校)から依頼を受け、福祉体験学習を行った。

（実施回数：５回　延べ人数：３３３名）

	実施日	対象	人数	内容
1	９月１４日	大河原南小学校３、４学年	８４	ふくし、社会福祉協議会について(講話)
2	９月２１日	大河原南小学校４学年	４６	高齢者の身体の変化について(講話及び高齢者疑似体験)
3	１月１６日	大河原南小学校４学年	４６	高齢者の暮らしについて(地域サロン高齢者との交流)
4	２月６日	大河原南小学校３学年	３８	車いす、白杖体験
5	２月１９日 ２月２０日	大河原小学校３学年	１１９	車いす、手話、点字、白杖体験

（４年度　実施回数：１４回　延べ人数：８４１名）

【評価と課題、今度の展開】

・実施内容や対象の学年について様々な意見が寄せられているが、現在は学校からの要望による実施回数、対象学年、授業内容に基づき実施していることから、学校以外からの意見等に対する調整が可能かどうか協議をしたい。

・５年度より始めた福祉体験のプログラム（一覧）を今年度も学校に配付し、学校側の意見を踏まえながら内容を決定する。学校との連携を強化し内容がより充実するよう取り組む。

・本事業は障がい者やボランティア連絡会加入団体、サロン団体等の協力を得て実施している。子どもたちからのアンケートでは体験や交流を通して障がい者や高齢者の暮らしを知ることができ、身近に感じられたという意見が多かった。また、協力者が町（近所）で子どもたちから声をかけられた例もあり、地域でのつながり・見守り（効果）も出ている。

・新型コロナウイルスの影響により２年間実施のなかった小中学生の長期休暇に行うボランティアスクールの開催に向け検討していく。(例：３年度実施テーマ・地域のサロンで交流しよう)

（３）有償ボランティア「よりそい・たい」事業の推進

高齢者や障がい者等が抱える日常生活上のちょっとした困りごとを住民相互の助け合いによって解決することを目的として、利用相談の受付ならびにボランティアコーディネートを実施した。利用者の変化や新たな困りごとについて、ボランティアから社協（事務局）に連絡や相談があり、三者が相互につながる関係ができたこともあった。

利用件数　３６件（前年度比－９件）

＊利用料金

３０分３００円　⇒　ボランティアに費用弁償として同額を支払う。

その他、ボランティア保険、領収書等の事務消耗品関係の支出がある。

＊実施した生活支援サービスの種類

①食事の支度１件、②衣類等の洗濯２件、③住居等の掃除・整理整頓２件、④庭の草取り２３件、⑤話相手４件、⑥コメの精米２件、⑦その他（ゴミ出し等）２件

＊登録者の状況

種　別	人　数	性　別	
		男	女
登録利用者	４７名（前年度比＋５）	１４名	３３名
登録ボランティア	１８名（前年度比－１）	８名	１０名

※家事支援の利用相談の多くは地域包括支援センターやケアマネジャーによるもので、週１～２回の定期利用を希望するケースが多い。

【評価・課題、今後の展開】

・「庭の草取り」が夏季に集中する傾向があり、ボランティアの熱中症対策が課題である。協議の結果、５年度は夏季の派遣を取りやめたほか、通常時であっても、庭の草取りは２名体制で行うこととした。夏季の屋外活動の依頼については、今後も慎重に判断していきたい。

・登録利用者に対して登録ボランティアが少ない現状から定期的な受託（ボランティア派遣）は難しい。介護保険で対応できない（特に定期的な）支援ニーズへの対応についてケアマネジャーや関係機関と協議・検討する場を設けたい。

・介護保険対象サービス、シルバー人材センターや NPO も含む民間企業（事業所）で対応出来るサービスとの役割分担、すみ分けが必要。また、地域における助け合いの期待もあることから、上記の課題も含め「有償ボランティア事業」としての適切さ等について、検討・検証を続ける。

（４）ボランティアグループ・福祉団体助成事業

誰もが地域で活動できる環境を整備するとともに、ボランティアに取り組む団体へ事業費を助成した。

合計７団体：１５７，０００円（前年比―１８，０００円）

No.	団体名	令和３年度	令和４年度	**令和５年度**
1	大河原町老人クラブ連合会	30,000 円	30,000 円	**30,000 円**
2	ＮＰＯ法人ほっとあい	30,000 円	20,000 円	**20,000 円**
3	大河原町身体障害者福祉協会	30,000 円	30,000 円	**30,000 円**
4	朗読グループ「糸でんわ」	30,000 円	15,000 円	**10,000 円**
5	点訳グループ「てんとうむし」	30,000 円	30,000 円	**30,000 円**
6	大河原町母子寡婦福祉会	30,000 円	30,000 円	**30,000 円**
7	大河原町ボランティア連絡会	―	20,000 円	**7,000 円**
	合計	180,000 円	175,000 円	**157,000 円**

【評価・課題、今後の展開】

・活動内容が移動研修のみの団体など事業目的にそぐわないケース、申請団体の固定化などが見られることから、「誰もが地域で活動できる環境整備」のため制度として見直す必要がある。

・令和６年度は新しい助成制度として見直しと内容拡大を行い、行政区や区の団体活動等も対象とした。

（５）バリアフリーなまちづくり事業

点訳グループ「てんとうむし」で点訳絵本を作成し、駅前図書館及び社協事務所へ設置した。

（６）機材や物品等の貸出

福祉団体やサロン団体の円滑な活動を支援するため、福祉用品等の貸出を行った。

コミュニケーション麻雀（ジャンボ牌）　９回（貸出し回数・以下同じ）
ボッチャ（ニュースポーツ用具一式）　４回
卓球バレー（ニュースポーツ用具一式）　２回
モルック　３回
いも煮なべセット　２回

（７）２４時間テレビ 45「愛は地球を救う」

福祉・地域協力についての啓発を目的に宮城テレビの企画により募金活動を実施した。

今年度から熱中症対策もかねて午後のみの募金活動とした。（募金額：１０２，４４９円）

日　時　　令和５年８月２７日（日）午後１時～午後４時
内　容　　街頭募金活動
場　所　　みやぎ生協大河原店前

（８）収集ボランティア

使用済み切手、書き損じハガキ、ベルマークを回収し、各種団体へ提供した。

物品名	送り先及び用途
使用済み切手	東北福祉大学を通して（社）日本キリスト教海外医療協力会へ送付し、ワクチン代として役立てる。
ベルマーク	小学校へ渡し、学校事業に役立てる。

１３．災害ボランティアセンター事業

（１）研修会等への参加

災害時支援協定に基づく連絡担当者会議及び災害支援連絡会議

日　時　令和５年７月６日（木）午後１時３０分～午後３時４５分

場　所　ＪＡビル宮城（仙台市）

秋田市及びいわき市災害ボランティアセンターへの職員派遣振り返り会

日　時　令和５年１２月１９日（火）午後１時３０分～午後３時３０分

場　所　オンライン

災害ボランティアセンタースタッフ研修（上級編）

日　時　令和６年２月７日（水）午前 10 時～午後４時

場　所　ハーネル仙台（仙台市）

第３回災害支援連絡会議

日　時　令和６年２月８日（木）午後１時３０分～午後２時３０分

場　所　オンライン

（２）災害ボランティアセンター研修会の開催

災害ボランティアセンターの機能や役割について理解することを目的に、災害ボランティアセンター研修会を開催した。

日　時　令和６年１月１９日（金）午後１時３０分～３時３０分

議　事　講　話　「災害ボランティアセンターの機能と役割」

講　師　　ウェザーハート災害福祉事務所　代表　千川原　公彦氏

対　象　行政区長、民生委員等（７４名参加）

場　所　大河原町中央公民館大ホール

１４．生活相談所事業

住民が身近な場所で、生活上の心配ごと等のあらゆる相談をすることができる場を開設した。

日　時　　毎週月曜日　午前１０時～午後３時

場　所　　大河原町福祉センター２階相談室

生活相談員　　６名（男性３名・女性３名）２名１組にて対応

開設日　　４６日

○相談人数と相談事項

相談人数　男２名・女１０名　相談事項　１２件　（４年度９件）

〈相談事項内訳〉　　＊１人で複数の相談事項があったため相談人数とは一致しない

No.	相談事項	取扱件数	No.	相談事項	取扱件数
1	生計	3	6	精神衛生	3
2	職業・生業	4	7	財産	1
3	住宅	1	8	障害福祉	2
4	家族	3	9	老人福祉	2
5	健康・衛生	2	10	その他	3

生活相談所ケース検討会の開催

開催年月日	参加者	内　　容
５月２２日（月）	相談員６名 事務局４名	１　生活相談事業第１回ケース検討 令和４年度下半期分ケースについて ２　生活福祉資金・生活安定資金についての状況報告
１０月２３日（月）	相談員６名 事務局４名	１　生活相談事業第２回ケース検討 令和５年度上半期分ケースについて ２　生活福祉資金・生活安定資金についての状況報告

受託事業・指定管理事業部門

１．福祉サービス利用援助事業

日常生活自立支援事業「まもりーぶ」（宮城県社会福祉協議会受託業務）

認知機能に低下が見られる高齢の方や知的障がい・精神の障がいのある方を対象に、福祉サービス利用に関する相談・助言や、生活支援員の定期的な訪問による日常的な範囲の金銭管理、生活変化の見守りを行い自立した生活が送れるよう支援した。

（１）利用者状況

	知的障がい者	精神障がい者	認知症高齢者	その他	合計
利用者総数	１名（前年度比±０）	１名（前年度比±０）	０名	０名	２名

生活支援員　　２名

（２）主な支援内容

福祉サービスに関する相談と助言・日常的な金銭の管理・書類等の預かり

利用者からの預託物品　通帳２通　印鑑２本

【評価・課題、今後の展開】

・季節の変わり目などの不穏な状態や入退院を繰り返えす等の状況の変化が頻繁な利用者について、専門員や生活支援員と情報共有し連携を図ることが出来た。利用者からは不安な時期に安心した（出来る）という声をいただいた。

・県社協では、本制度の受委託方法（関係）の大幅な変更を打ち出しており、今後、本社協としても独自の取り組みについての判断が求められる。

２．一般介護予防事業（ミニデイサービス事業）（大河原町受託業務）

一般介護予防事業は、要支援・要介護認定を受けていない 65 歳以上の高齢者を対象に、要介護状態になることを予防し生活の質の維持・向上することを目指している。

平成 12 年度から町直営事業を受託していたが、平成 28 年度の法改正により「介護保険一般介護予防事業」となったことに伴い現在の形となっている。介護保険の適用事業で利用者の負担は 1 割である。諸物価の高騰により令和 5 年 4 月より個人負担（1 割分を）330 円から 350 円に値上げした。

【事業実施概要】

実施日	毎週水曜・木曜（利用者１名につき週１回の利用）
時　間	午前１０時から午後３時
場　所	大河原町福祉センター2 階
取組事項	栄養改善指導１０回、口腔機能向上指導１０回、運動機能向上運動７５回
登録人数	２６名（男１名・女２５名）
利用料金	1 回あたり 3,500 円、利用者負担は 350 円 ＊お昼の弁当代 450 円を含むと、1 回あたり 800 円の負担となる。
支援ボランティア	ボランティア登録数 6 名（男 1 名・女 5 名）

【令和５年度利用状況】

実施月	利用延人数（開所日数）（人）			１日利用者平均（人）	令和５年度登録者数		ボランティア延人数（人）
	令和４年度	**令和５年度**	増　減	令和５年度	水曜	木曜	令和５年度
４月	６０（８）	**８７（８）**	２７	１１	１４	１２	6
５月	４６（６）	**７９（７）**	３３	１１	１４	１２	5
６月	８２（10）	**９６（９）**	１４	１１	１４	１３	7
７月	８２（８）	**８２（８）**	0	１０	１４	１２	6
８月	６８（７）	**８０（８）**	１２	１０	１４	１２	6
９月	８８（９）	**８０（８）**	▲８	１０	１４	１２	6
１０月	８９（８）	**８６（８）**	▲３	１１	１４	１２	6
１１月	８２（７）	**９５（９）**	１３	１０	１４	１２	7
１２月	７０（７）	**５９（６）**	▲１１	１０	１４	１２	4
１月	５２（６）	**７８（７）**	２６	１１	１３	１２	5
２月	４８（５）	**９１（９）**	４３	１０	１３	１２	7
３月	１１４（10）	**６９（７）**	▲４５	１０	１４	１２	5
合　計	８８１（91）	**９８２（94）**	１０５	１１	―	―	７０

＊登録者数は月末の人数です。年度末の年齢構成は、70 歳後半：3 名、80 歳前半 0 名、同後半 11 名、90 歳前半 11 名・同後半 1 名の計 26 名。

〈事業収支の概算〉

〇収入額：3,437,000 円（一人当の単価 3,500 円×982 名）

〇支出額：2,619,000 円（・人件費／補助員 2 名、運転手 1 名分　・車両経費／車検、点検、燃料等　・消耗品費）

【評価・課題、今後の展開】

・（年度末で）主に 80 歳後半の高齢の方を中心に水曜日１４名、木曜日１２名計 26 名が利用登録している。1 日当たりの利用者は 10～11 名程度である。介護保険に該当すると利用できなくなること等により、利用人数の推移は予想が難しいが、対応人数としては現在が適当であると考えている。

・現在程度の利用人数が確保できなくなれば、収入の減少に対応し利用料金の改訂やサービスの縮小などが必要となる。適切な PR と利用登録者数の管理が必要である。

・サービス内容は、身体機能向上プログラムや利用者の要望や意見を取り入れた屋外活動などを展開し好評をいただいている。定期的なアンケートや聞き取り調査により、利用者に効果的で喜ばれる内容を目指す。

３．認知症カフェ事業（カフェ木もく）（大河原町受託業務）

認知症になっても住み慣れた地域で自分らしい生活を送ることができる環境を整備するとともに認知症サポーター養成講座の開催や関連書籍の紹介など認知症に対する正しい知識の普及啓発を行うことにより、認知症の人を地域で支え合うまちづくりを推進することを目的とし、令和元年 12 月から町からの受託により認知症の人とその家族、地域住民のだれもが参加し集うことができるカフェを開設した。

開催日時　毎週木曜日　午前９時３０分～１１時３０分
開催場所　大河原町福祉センター
利用料　　１００円
開設日数　４８日　延べ人数：５２３名
　　（4年度　開設日数：４５日　延べ人数：３１２名）
受託料　　1日7,500円　年額360,000円
内　訳

実施月	延べ人数（開所日数）		
	令和4年度	**令和5年度**	増　減
4月	２１（4）	**３３（4）**	１２
5月	２１（4）	**４３（4）**	２２
6月	２５（4）	**５１（4）**	２６
7月	２４（4）	**５０（4）**	２６
8月	５（1）	**４６（4）**	４１
9月	２９（4）	**３３（4）**	4
１０月	２８（4）	**４５（4）**	１７
１１月	３２（4）	**３８（4）**	6
１２月	２５（4）	**４２（4）**	１７
1月	２９（4）	**４２（4）**	１３
2月	３３（4）	**５８（4）**	２５
3月	４０（4）	**５２（4）**	１２
合　計	３１２（45）	**５２３（48）**	２１１

【評価と課題、今後の展開】
・参加者の毎週の楽しみとして定着している。他の認知症カフェと比較して男性の参加者が多いという特徴がある。参加する中で顔見知りになり、参加者同士お互いを気に掛け合う関係ができている。
・現在、認知症の方に限らず誰でもが参加可能で、社会福祉士が相談などに対応出来る場となっており、多様な参加者で参加人数も大幅に増えている。今後も地域包括支援センターや町内認知症カフェと連携しながら参加者同士の声かけあっての参加や見守りなど通い続ける仕組みを継続して行く。
・認知症に関する質問や認知症関連書籍の貸出数が増加している。書籍や情報の提供と、年1回の認知症サポーター養成講座の開催を継続していく。

４．生活支援体制整備事業（大河原町受託業務）

１　生活支援体制整備事業の目的と契約概要

生活支援体制整備事業は介護保険法（平成９年法律第１２３号）第１１５条の４５第２項第５号及び大河原町生活支援体制整備事業実施要綱に基づき、生活支援・介護予防サービスの充実と介護予防のための高齢者の社会参加に向けて、ボランティア等の生活支援の担い手の発掘・養成

等を行うとともに、地域資源の把握・開発やネットワーク化を実施し、地域の支援体制の充実・強化を図ることを目的として平成２９年より大河原町より受託している。

令和５年度は、高齢者の社会的孤立の問題に取り組み、**気になる高齢者巡回訪問事業**？をはじめ各事業で高齢者と地域（誰か）のつながりの維持と再生に向けた事業を展開した。

契約金額　6,684,000 円

2　職員体制

令和５年度の本事業を担当した主な職員（生活支援コーディネーター等）は以下の４名である。

（１）中村　顕伸　（２）東　佑衣　（３）板橋　奈緒　（４）髙橋　直子

3　事業内容

（１）気になる高齢者巡回訪問事業

要支援、要介護状態ではないがそれに近い状態、若しくは今後近いうちにそうなる可能性が高い高齢者は生活に困難を抱えていても周囲に気づかれにくい傾向が見られる。そのような「気になる高齢者」を対象に、生活支援コーディネーターと地域包括支援センター職員が民生委員に同行してもらい全地区で４８世帯５２名を訪問し、相談や介護保険や生活支援サービス等につなげる活動を行った。**実施期間　令和５年７月５日～１０月４日（毎週水曜日）**

[つながった（つなげた）事例]

つながり先	件数	内　容
社会福祉協議会	3	「福祉用具の貸出」「カフェ」「よりそいたい」
地域包括支援センター	6	「緊急通報システム」「介護認定」など
民間企業	1	ゴミ廃棄サービス
その他	2	免許返納など

（２）**「ウォーキングでつながろう、てくてく千本桜スポーツパーク」開催**

６０歳以上の町民を対象にして、白石川右岸千本桜スポーツパークを利用しウォーキング研修会を行った。ウォーキングを生活習慣に取り入れることでフレイルや認知症を予防するとともに、参加者同士でウォーキング中に会話したりすることで、社会参加や新しいつながりをつくることを目的として実施した。事後のアンケートの結果では「他の参加者と交流があった」と回答した人が約９割あり、つながりをづくりに効果があったことが覗われる。

日　時：令和５年１０月２４日（火）午後１時３０分～３時３０分

参加者：５５名

場　所：千本桜スポーツパーク

（３）地域活動の活性化支援と地域支え合い推進

地域活動の活性化のためサロン等活動を訪問しボッチャの講習や特殊詐欺予防ゲームなどによる活動支援や地域の支え合いの大切さについて考えてもらった。それらの地域活動を広報誌やホームページで取り上げることで、他の動団体の参考や刺激となっている。

［アウトリーチ（訪問）の内容］

訪問先	日程	参加人数	内　容
上谷1区レインボー会	6月7日(水)	6	おおがわら桜ラインウォーキング
錦町ひまわり会	6 月 30 日(金)	11	おおがわら桜ラインウォーキング
(金ケ瀬4･5区) きらくなサロン	7 月 7 日(金)	9	ボッチャ講習
上谷1区レインボー会	7 月 27 日(木)	31	取材　七夕飾り作成贈呈
本町1区なごみ会	9 月 13 日(水)	11	取材　健康体操･綿あめづくり
小島区いなほ	9 月 15 日(金)	16	取材　フレイル予防
保科のつどい	9 月 20 日(水)	14	取材　体操･茶話会
上谷1区ラジオ体操	11 月 2 日(木)	10	モルック講習
上谷1区ラジオ体操	11 月 9(木)	10	モルック講習
桜町2区サロン南桜	11 月 17 日(金)	15	特殊詐欺被害予防「ゲキタイかるた」ゲーム
中町なごやか会	12 月 12 日(火)	17	特殊詐欺被害予防「ゲキタイかるた」ゲーム
中島町区一休会	12 月 18 日(月)	12	ボッチャ講習･コツコツ体操
上谷1区レインボー会	12 月 21 日(木)	40	取材　クリスマス会
上町2区コスモス会	2 月 9 日(金)	12	支え合い研修「支え合い」ゲーム

（４）保険証交付時説明会と「生活支援サービス事業所一覧」の配付

高齢者のつながりづくりの推進を目的に、前期高齢者・後期高齢者保険証交付説明会に生活支援コーディネーターが出向き参加者にむけ社会性（つながり）と健康について説明した。また、「生活支援サービス事業所一覧」を配付し介護保険以外の生活支援サービスの情報を提供した。

実施回数　前期高齢者保険証交付説明会　１２回　参加者計１２４名

後期高齢者保険証交付説明会　１２回　参加者計１７６名　合計３００名

（５）生活支援体制整備事業広報誌等の発行

生活支援体制整備事業広報誌「こんにちわぁー」

7 月１５日号、12 月１５日号　10,200 部　全戸配布

（６）協議体（地域ぐるみの支え合い会議）の運営

地域支援ニーズ及び既存の地域資源の把握並びに情報の見える化の推進等を目的として、地域ぐるみの支え合い会議を３回開催した。

１．第２０回地域ぐるみの支え合い会議　令和５年７月７日（金）

午後１時３０分～３時３０分

①令和４年度　生活支援体制整備事業報告について

②令和５年度　生活支援体制整備事業計画について

③生活支援コーディネーター活動報告

２．第２１回地域ぐるみの支え合い会議　令和５年９月１２日（火）

午前９時３０分～１１時３０分

①前回協議事項について報告

②気になる高齢者巡回訪問途中経過報告

③「ウォーキングで介護予防（仮)」イベント開催について

３．第２２回地域ぐるみの支え合い会議　令和６年２月２７日（火）

午前１０時～１２時

①「ウォーキングでつながりづくり」実施報告について

②気になる高齢者巡回訪問実施報告

③一人暮らし高齢者「非常持出し袋」配付実施報告

④令和６年度活動計画について

（７）生活支援サービスの充実

１．はつらつメイト養成講座

はつらつメイト養成講座の開催に協力した。ボランティア活動についての講義等を行った。

２．２０２３元気アップフェア in おおがわら

２０２３元気アップフェア in おおがわらの運営に協力した。

日時：令和５年７月８日（土）　午前８時３０分～午後１時

場所：大河原町中央公民館

３．大河原町内ケアマネージャーとの情報交換会

生活支援コーディネーター側からは地域活動をはじめとする社会資源の情報を提供した。

日時：令和５年８月９日（木）　午後１時３０分～３時３０分

場所：大河原町中央公民館　１階会議室

４．買い物弱者問題に対応する移動販売業者と情報交換

①ウェルシア薬局

「移動販売」「ウェルカフェ（住民活動へ場所の提供)」について担当者と情報交換した。

②とくしまる（移動販売業者）

見守り活動と移動販売を結びつけた事業について担当者と情報交換した。

5．近隣市町村生活支援コーディネーター情報交換会の開催

大河原町、白石市、角田市、村田町、丸森町、蔵王町、の生活支援コーディネーターが集まり、実施事業内容を中心に情報交換した。

日時：令和５年１２月１５日（金）　午後３時３０分～午後５時

場所：大河原町福祉センター１階会議室

6．「ラジオ体操」によるつながりの維持

介護予防とニーズ調査、活動継続支援などの為に生活支援コーディネーターが地域に出向き住民とラジオ体操を行った。のべ２２１回実施。

（8）関連研修への参加

1．宮城県生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）養成研修

2．生活支援コーディネーター養成オンライン研修

3．宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議市町村情報交換会

4．第２回在宅医療介護多職種連携・地域住民コラボオンライン研修会

5．厚生労働省「地域づくり加速化事業」ブロック別研修会（オンライン研修）

【評価・課題、今後の展開】

・町担当者と毎週水曜日に打合せ会を開催し連絡を密にしながら事業を進めた。コロナ禍の影響で取り組んだ事業、出来なかった事業があるため、今後各事業の評価と見直しを進め、方向性を確認する必要がある。

・具体的なイベントとして「ウォーキングでつながろう、てくてく千本桜スポーツパーク」に取り組んだ。好評を博したが、今後は直接開催（主催）ではなく、ウォーキング指導者の育成を目指す。

・巡回訪問事業で前年度対象者の再訪問に新規対象者を加えて実施したが、この形では対象者が増加するばかりである。介護保険の利用など何らかのつながりが確保されている方を除くなどの対応が必要。

５．福祉作業所さくら運営事業（大河原町指定管理業務）

□大河原町福祉作業所さくら（地域活動支援センター）の活動状況

福祉作業所さくらでは「地域活動支援センター」として、利用者が明るく健康的な生活を送りながら、社会への適応訓練や各種の作業訓練を行い、社会生活への適応力を養うことを理念として各種事業、活動に取り組んでいる。

（1）利用者生産活動の機会提供

利用者の希望、能力、適性等に応じて生産活動機会を提供した

○町内の企業からの受託作業（齊藤製作所、菓匠三全）

（2）創作的活動（支援）

利用者に対して、音楽、絵画、工作等の指導援助や支援を行いながら、利用者が生活の中で楽しめる事を見つけられるように支援した。

・さくらブランド制作（クラフト小物等）

・各種行事の看板作り（さくらカフェ、クリスマス会等）
・パソコンを使っての活動（イラスト、ぬり絵等）
・リースづくり、ステンシル等（6月１６日（金)、9月２９日（金)、1月２６日（金）
・農園活動 （ブルーベリー、ニンニク、タマネギ等）

（３）社会的適応訓練

外出・買い物等の日常生活における社会的自立に必要な知識と技能の習得を支援した。

日常生活訓練

・食事会　　1月１０日（水）
・調理実習　　7月２８日（金）
・秋季研修会　１０月１３日（金）
・缶・段ボールの回収・分別作業　随時
・避難訓練　　5月３１日（水）(地震)、9月２０日（水）(水害)
・防災講話　　3月１１日（月）

（４）機能訓練

レクリエーション、機能訓練を能力に応じて実施し体力維持・向上を図りながら、日常生活動作を一つでも多く習得できるよう支援した。

・散歩・歩行訓練　随時
・木曜体操（毎週）
・卓球バレー
・季節行事　お花見会　4月5日 (水)、新年会　1月１０日 (水)、豆まき会　2月2日 (金)

（５）社会との交流促進活動

地域の様々な活動に積極的に参加し、地域社会との交流を促進した。町や他団体主催のイベント等へも参加した。

・身体障害者福祉協会とのクリスマス会　　１２月２２日（金）
・コミュニティカフェ　5月２２日 (月)、6月5日 (月)、6月１９日 (月)、7月２４日 (月)、8月7日（月）
・さくらカフェ　6月２２日（木)、１１月１７日（金）
・オータムフェスティバル　１０月２２日（日）
・老人クラブ趣味の作品展　3月2日（土）

（６）在籍利用者数　　（単位：人）

性別	令和３年度末現在	令和４年度末現在	令和５年度末現在
男	8	7	7
女	6	5	6
計	１４	１２	１３

（参考）利用者の年齢構成（Ｒ５年度末現在）　　（単位：人）

年齢	15~20 歳	21~30 歳	31~40 歳	41~50 歳	51~60 歳	61 歳以上
男	0	1	0	1	5	0
女	0	0	1	2	1	2
計	0	1	1	3	6	2
(最年少24歳)						(最高齢73歳)

（７）利用者等状況

月	延べ利用者（人）	開所日数（日）	月平均（人）	ボランティア延べ人数（人）	備　考
4	１６６	２０	8	３３	利用者長期欠席１名（年間）
5	１６４	２０	8	３２	
6	１８２	２２	8	３８	
7	１８６	２０	9	５１	
8	１４８	１８	8	４２	
9	１４１	２０	7	４６	
１０	１６４	２１	8	５４	
１１	１５４	２０	8	４６	
１２	１７０	１９	9	３５	
1	１５８	１８	9	３１	
2	１６４	１９	9	３８	
3	１５７	２０	8	３４	
計	**１，９５４**	**２３７**	**8**	**４８０**	

＊ボランティア登録数　２７名

（８）福祉作業所さくら運営委員会

開催年月日	内　　容
５月１７日（水） 第１回運営委員会	令和４年度事業報告 令和４年度事業会計決算報告 令和５年度事業会計補正予算（案）
２月２６日（月） 第２回運営委員会	令和６年度事業運営計画（案） 令和６年度事業会計予算（案）

（９）実習生の受け入れ

・大河原町立大河原中学校の「職場体験学習」（総合的な学習の時間）で、２年生３名（男１、女２）が、９月６日（水）、７日（木）の２日間、生活支援員の職務を体験した。

・宮城県立角田支援学校高等部２年生１名（男子）が、１１月６日（月）から１１月１０日（金）まで５日間の「現場実習」を行った。

資金貸付事業部門

（１）生活福祉資金貸付事業（宮城県社会福祉協議会受託業務）

① 生活福祉資金貸付事業の実施

低所得世帯、障がい者または高齢者に対し、世帯の経済的自立を支援するため生活福祉資金の貸付と相談支援並びに償還に向けた支援を行った。

取扱状況	相談受付数		償還相談対応数		県社協への申請数	
	R4:41 件	R5:46 件	R4:4 件	R5:2 件	R4:0 件	R5:9 件

相談件数**（前年度比＋５件）**

② 貸付状況

教育支援資金２件、総合支援費１件、福祉費２件、緊急小口資金６件、緊急小口資金（東日本震災特例）４９件　　合計　６０名

③ その他の支援

生活福祉資金貸付者対象のフードパントリーを６月と２月に開催した。６月には 70 名の支援、２月には 42 名の支援を行い、うち７件の相談や移転の報告を受け付けた。

[貸付相談支援等の状況]

□緊急小口資金（コロナ特例）貸付と総合支援資金（コロナ特例）貸付　償還免除状況

	令和５年度実績	
	免除件数	免除金額
緊急小口	２４件	３，９５０，０００円
総合支援	２１件	１１，３９５，０００円
合計	４５件	１５，３４５，０００円

（２）生活安定資金貸付事業

令和５年度中の貸付申請は無かった。

① 生活安定資金の貸付状況

区分	令和５年３月	令和６年３月
	１件	１件
貸付	２５，０００円	２５，０００円
預金	６７５，０００円	６７５，０００円
合計	７００，０００円	７００，０００円

【評価・課題、今後の展開】

・コロナ特例の貸付が令和４年 10 月に終了しており、それ以降は通常の生活福祉資金の貸付相談が増加している。

・フードパントリー支援を行った際、相談以外に移転等の報告を受け付けた。これにより対象者の現状や諸変更を知ることが出来たので、今後の支援連絡に役立たせられる。

資　料　編

1　評議員及び役員等名簿

・評議員
・役員
・評議員選任・解任委員
・福祉サービスに関する第三者委員

2　組織図

社会福祉法人　大河原町社会福祉協議会

評 議 員 名 簿

（任期：令和３年６月１６日～令和７年６月の定時評議員会終結の時まで）

評　議　員

令和６年３月末現在

NO	氏　名	選出区分
1	松　崎　信　三	行政区長
2	日　下　和　夫	行政区長
3	佐　藤　俊　憲	行政区長
4	長谷川　年　夫	行政区長
5	鈴　木　佳　孝	行政区長
6	齋　藤　樹一郎	民生委員児童委員
7	岩 間　　武	民生委員児童委員
8	髙　橋　信　幸	民生委員児童委員
9	橋　本　信　子	民生委員児童委員
１０	岩　間　洋　子	民生委員児童委員
１１	佐々木　伸　明	主任児童委員
１２	香　味　みよ子	施設関係者
１３	八　島　　哲	施設関係者
１４	舟　山　今朝男	福祉・ボランティア団体
１５	小　野　葉　子	福祉・ボランティア団体
１６	吉　田　健　一	学識経験者
１７	佐　藤　勝　男	学識経験者

社会福祉法人　大河原町社会福祉協議会
役　員　名　簿

◎会　長：　及　川　恵　志

○副会長：　大　沼　弘　子　、　鈴　木　淳　一

（任期：令和５年６月１３日～令和７年６月の定時評議員会終結の時まで）

理　事

令和６年３月末現在

NO	氏　名	選出区分
1	丸　田　清　志	行政区長
2	津　田　春　光	福祉団体関係者
3	櫻　井　美砂子	ボランティア関係者
4	渡　邊　典　子	社会福祉事業関係者
5	村　上　豊　子	ボランティア関係者
6	佐　藤　能　文	町内企業代表
7	及　川　恵　志	学識経験者
8	大　沼　弘　子	民生委員児童委員
9	鈴　木　淳　一	学識経験者
１０	佐　藤　富　男	学識経験者
１１	長谷川　早　苗	行政関係者

監　事

NO	氏　名	選出区分
1	大　泉　孝　徳	財務管理について識見に有する者
2	小　原　美　鈴	社会福祉事業について識見に有する者

社会福祉法人　大河原町社会福祉協議会
評議員選任・解任委員

（任期：令和３年６月１５日～令和７年６月の定時評議員会終結の時まで）

NO	氏　名	選出区分
1	倉　繁　正　弘	外部委員
2	小　形　　治	外部委員
3	髙　橋　　弘	外部委員
4	大　泉　孝　徳	監事
5	木　村　淳　一	事務局員

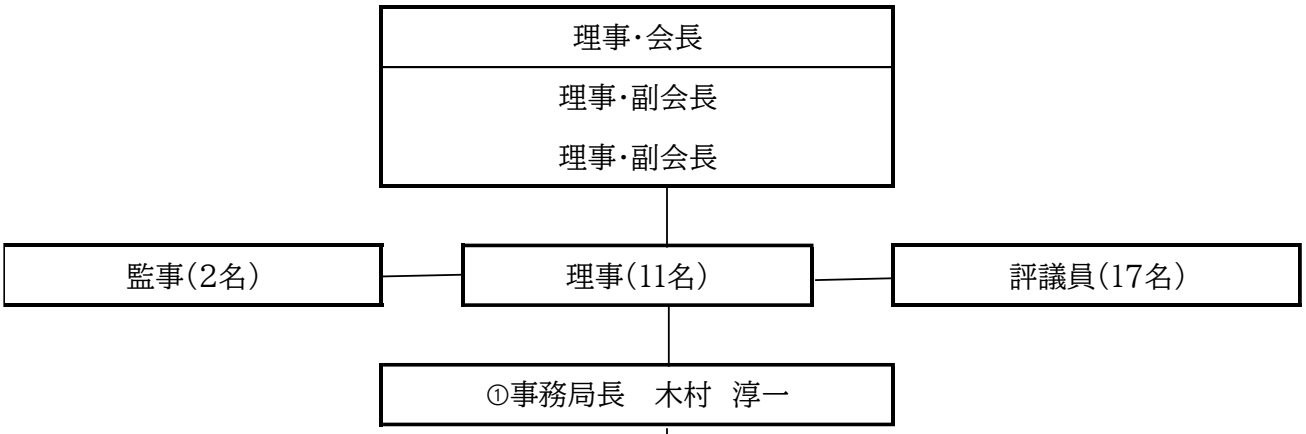
社会福祉法人　大河原町社会福祉協議会
福祉サービス第三者委員

（任期：令和４年４月１日～令和６年３月 31 日まで）

NO	氏　名	職　名
1	佐　藤　勝　男	第三者委員
2	佐　藤　邦　男	第三者委員

社会福祉法人　大河原町社会福祉協議会組織図

《令和6年3月31日》



事務局[法人・地域福祉]（53-0294）		
②	事務局次長	古山　哲也
③	主事	水上　学歩
④	事務員兼主任介護予防支援員	渡邊真喜子
⑤	主事兼生活支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ	中村　顕伸
⑥	主事	伊藤　小枝
⑦	主事兼生活支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ	東　　佑衣
⑧	主事兼生活支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ	板橋　奈緒
⑨	事務員	高橋　直子
⑩	事務員	鎌田加代子
⑪	運転手兼業務員	幕田　憲治
⑫	介護予防支援補助員	瀬戸　弘美
⑬	介護予防支援補助員	和田　恵子

福祉作業所さくら（53-8862）		
①	所長	片山　栄次
②	生活支援員兼相談員	齋藤絵理子
③	生活支援員	中森かおり
④	生活支援員	山家　美紀

事業報告の附属明細書

令和５年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していない。

社会福祉法人大河原町社会福祉協議会